

令和6年度

中丸小学校関係者評価委員会報告書

中丸小学校関係者評価委員会
委員長 細川太輔

＜活動日程と活動内容＞

令和6年度における中丸小学校関係者評価委員会は、下記の日程で活動を行った。

令和6年10月16日(水)	中丸小学校独自評価項目の策定
令和7年 2月 4日(火)	委員にて調査結果の考察
令和7年 3月 7日(金)	中丸小学校への提言作成

＜調査結果の考察＞

アンケート調査結果および委員による調査内容を考察した結果、以下の点が指摘された。

昨年度より、保護者アンケートの提出率が前年度より上昇した。(63.5%→70.7%)

また、全体的に肯定的評価(A・B)が増えた印象を受ける。

A 学校関係者評価の集計結果に関する考察と提言

(1) 児童(対象5・6年生)による学校評価より

昨年度と比較し、以下の項目が肯定的評価の増加が見られる。

- 3 (1) 学校行事は、楽しい
- 3 (2) 学校行事は、達成感がある。
- 3 (3) 先生は、児童の意欲を大切にしている。
- 4 (1) 自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。
- 4 (2) 目標をもち、その実現に向けて努力している。
- 4 (3) 区立中学校に関する情報が提供されている。
- 6 (2) 学校が好き。
- 7 (2) 話し合いをすると自分の考えや友達の考えがわかるようになる。

・どれも総合的な学習の時間などで、自分のやりたいことができた、地域に貢献できた、という経験をしたことが影響していると考えられる。

昨年度と比較し、以下の項目が肯定的評価の減少が見られる。

- 7 (6) 体育の授業や休み時間には、進んで体を動かしている。
- ・7 (6) については、昨年も減少している。児童が自ら体を動かしたくなるような指導を工夫して行ってほしい。

(2) 保護者・地域による学校評価より

昨年度と比較し、数値に大きな変化はなかった。

- ・全ての項目について、変化は見られなかつたが、昨年度大きく減つたところも変化がない。地域や保護者に学校に興味を持つてもらえるような工夫が必要だろう。
- ・児童の評価は高いのに、保護者で低い項目がいくつもある。子どもが家庭で自然と学校のことを話すとそのギャップが解消されると考える。様々な方法で保護者が学校のことを理解し、興味をもつてもらえるような工夫が必要であろう。

B 自己評価（教職員）に関する考察と提言

どの項目も教職員の評価が概ね高かった。しかしながら、「校務分掌」「学校行事」で低い評価がいくつかあった。引き続き学校で議論して、よい学校になるように努めてほしい。

<総合所見>

今年度は、児童による評価は増加傾向にある項目多かつたが、保護者・地域による評価は変化があまり見られなかつた。学校の活動が家庭に伝わるように、子どもが自然と家で話すようになるように、充実した教育活動を引き続き、行ってほしい。

学校関係者評価委員会 提言

① 総合学習の活性化

児童の評価が上がつた原因に、総合的な学習の時間の存在が挙げられる。引き続き地域に根ざした総合的な学習の時間を進め、児童の達成感が高まる学習を工夫してほしい。

② 地域や保護者の学校参加

保護者や地域が学校に興味をもつと持つてもらうことは重要である。教育は家庭、学校、地域で連携して行われるものであるからである。SNSを通じた発信や、子どもの口頭での連絡、学校からの手紙など現状でも様々な工夫がなされているが、まだ数値には表れていない。教育の第一責任は家庭にあり、そのために学校と連携していくという姿勢を保護者に理解してもらう努力を引き続き行ってほしい。